

5 古典

学習の要点

歴史的仮名遣いの現代仮名遣いへの書き換え

- (1) 「ゐ」→「い」、「ゑ」→「え」
- (2) 「ぢ」→「じ」、「づ」→「ず」
- (3) 「くわ」→「か」、「ぐわ」→「が」
- (4) 語頭に来ない「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
- (5) 「アウ」→「オー」、「イウ」→「ユー」、「エウ」→「ヨー」

係り結びの法則

文末が、文中の助詞「や・か」（疑問・反語）、「なむ・ぞ・こそ」（強意）に呼応して終止形以外の形をとること。
「や・か・なむ・ぞ」→連体形、「こそ」→已然形

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

昔、*大和の国、立田村に、*むくつけき女ありて、*まま子の*喉を十日ほどしてより、飯を一椀見せびらかしていふやう、
の食べたらんには、汝にもとらせん、とあるに、まま子は*ひだるさたへ難く、石仏の袖にすがりて、
*しかじか願ひけるに、
① 石仏、大口あけて、*むしむし食ひたまふに、さすがのまま母の角もぼつきり折れて、それ
より②と隔てなく、はぐくみけるとなん。その地蔵菩薩今にありて、
折々の*供物たえざりけり。

ほた餅や藪の仏も春の風。
（注）大和の国＝今の奈良県。 むくつけき女＝がさつで乱暴な女。

まま子＝親子としての血のつながりのない子。
喉を十日ほどして＝十日ほど空腹にして。 ひだるさ＝ひもじさ。
むしむし＝むしゃむしゃと。 供物＝おそなえ物。

〈小林一茶「おらが春」より〉

□(1) ①・②に入る最も適切なことばを次からそれぞれ選び、記号で
答えなさい。

□(2) ① ア 恋しやな イ たのしやな ウ 苦しやな エ ふしぎやな
□(2) ア まま母 イ わが子 ウ まま子 エ 石仏

①
②

□(2) ——線①「これをあの石地蔵の食べたんには、汝にもとらせん」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 石地蔵にそなえる飯が足りないので、お前にはあげられないよ。
イ この飯は石地蔵が食べる分はないよ。

ウ 石地蔵がこの飯を食べなかつたら、お前に分けてあげるよ。
エ この飯を石地蔵が食べたなら、お前に食べさせてあげるよ。

□(3) ——線②「しかじか願ひける」とは、「これこれのことを願つた」という意味ですが、まま子は、どういうことを願つたのですか。「こ」と。といふ形で、二十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□(4) ——線③「折々の供物たえざりけり」からわかることとして適切なもの を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々が、石地蔵の奇跡を今でも見たがつていてること。

こ
と
。

イ 人々が、石地蔵のやさしさに今も心を寄せていること。

ウ 人々が、まま母のしたことをずっと忘れないでいること。

エ 人々が、子どもの純粹さをいつまでも大切にしていること。

□(5) 「ぼた餅や…」の俳句から伝わつてくる感じとして適切なものを次から二

つ選び、記号で答えなさい。

ア あたたかさ イ たくましさ ウ 楽しさ

エ さみしさ オ ゆたかさ カ のどかさ

<input type="checkbox"/>	.	<input type="checkbox"/>
--------------------------	---	--------------------------

練成問題

1 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ねずみ^①の娘を * まうけたるが、天下に並びなき婿をとらんと、 * おほけ
なくて ^(a) 思ひ企てて、 * 日天子こそ世を照らし ^(b) たまふ * 徳めでたけれと思
ひて、朝日のいでたまふに、娘をもちて候ふ。みめかたちなだらかに候ふ。
○ * まゐらせんと申すに、われは世間を照らす徳あれども、雲に会ひぬれば
光もなくなるなり。雲を婿にとれとおほせられければ、 * まことにと思ひて、⁵
黒き雲の見ゆるに会ひて、このよし申すに、われは日の光をも隠す徳あれども、
風に吹き立てられぬれば、 * 何にてもなし。風を婿にせよと言ふ。 ⁽²⁾ * さも
と思ひて、山風の吹けるに向かひて、このよし申すに、われは雲をも吹き、
草木をも吹きなびかす徳あれども、 * 築地に会ひぬれば力なきなり。築地を
婿にせよと言ふ。 * げにと思ひて、築地にこのよしを言ふに、われは風にて
動かぬ徳あれども、ねずみに掘らるるとき、耐へがたきなりと言ひければ、
さては、ねずみは何にもすぐれたるとて、ねずみを婿にとりけり。

〈「沙石集」より〉

(注) まうけたる=持つていた。 おほけなく=あつかましく。

日天子=太陽。 徳=身につけている力。能力。

まゐらせん=差し上げましよう。 まことに=なるほど。
何にてもなし=どうにもならない。 さも=なるほど。

築地=泥でつくった土壠。 げに=なるほど。

□(1)

——線①「の」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答え
ひらがなで書いて答えなさい。

<input type="checkbox"/> (a)	<input type="checkbox"/> (b)	<input type="checkbox"/> (c)
------------------------------	------------------------------	------------------------------

□(2)

——線①「の」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答え
なさい。

ア 主格を表す格助詞であり、「ねずみが」と訳す。

イ 同格を表す格助詞で、「ねずみで娘を持っていたものが」と訳す。
ウ 連体格を表す格助詞であり、「ねずみの娘が」と訳す。

エ 名詞の一部で「ねずみ野」という場所を表す。

□(3)

——線②「さも」とあります。本文中のどの会話を受けてこのように
思ったのですか。本文中からその最初と最後の三字を書き抜いて答えなさい。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

□(4)

「ねずみ」が、口に出して言っている言葉を探し、その最初と最後の三字
を書き抜いて答えなさい。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

□(5)

「ねずみ」が娘の婿として四番目に考えたのは何ですか。本文中から書き
抜いて答えなさい。

<input type="checkbox"/>

□(6) 本文を教訓話と考えた場合に、そこから考えられる教訓はどのようなも
のですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 世間の力はすばらしく、いつも一番良い結果を導いてくれるものだ。

イ 娘の結婚相手について、親はいつも深く思い悩むものだ。

ウ あつかましいことを考へる者は、結局は罰を受けるものだ。

エ 自分たちにつりあつた相手が一番よい結婚相手である。

2 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

秀吉 * 伏見に御在城の時、① * 宇治の住人何それがしとやらんに、御秘蔵の鶴を預けおかれしに、かの者夜日② 大事にいたしけるに、* 何としてかは、ある時かの鶴籠抜けをして何方ともなく飛行しぬ。かなたこなたを尋ね歩けどもかひなし。* よしそれとても隠しあきては後難逃れがたしとて、伏見に③ 参向し、広間に相ひ詰め御出でを相ひ待ち申し、太閤 * 鷹野に御出での時、⁵ ④ 御機嫌を見合はせ、この事つぶさに⁵ 言上す。秀吉聞こしめし、「その鶴は * 唐国に飛行してやあらん」と仰せられしに、* ⑤ 10 伺公の面々、「いや唐国では飛行つかまつり候ふまじ、さだめて日本の地にこそ⁶ 居申すべけれ」と申し上げければ、秀吉聞こしめし、「さあらば苦しからず、日本の地に居るなれば我が飼ひ鶴なり」と仰せられしとなり。まことに木下藤吉郎と⁷ 気言ひし人の次第次第にへあがつて、後には天下をとりし程の人なれば、⁷ 気立てもまた世の常の人にはかはりたり。

(注) 伏見 = 現在の京都市伏見区。

宇治 = 現在の京都府宇治市。

何としてかは = どうしたことだらうか。

よしそれとても = たとえどうであつても。

参向 = おもむくこと。

鷹野 = 鷹狩り。

伺公の面々 = おそらく近づいてひかえている人々。

□(1) — 線①「宇治の住人何それがし」が心中で思つてゐることが述べられている部分を探し、その最初と最後の四字を書き抜いて答えなさい。

□(3) — 線③「御機嫌を見合はせ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 秀吉の気分がよいのをみはからつて。
イ 鷹の気持ちをそこねないように注意して。
ウ 鶴の気持ちをうまくつかもうとして。

エ 伺公の面々の気分を感じとつて。

□(4) — 線④「この事」とは、どのようなことですか。「こと」という形で、三十字以内(句読点も字数に数えます)で説明しなさい。

□(5) — 線⑤「言上す」、⑥「居申すべけれ」の主語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 秀吉
ウ 鶴
エ 伺公の面々
オ 筆者

□(6) — 線⑦「氣立てもまた世の常の人にはかはりたり」とあります、秀吉は、あやまちをした家来をとがめなかつた寛大さの他に、どのような点で世の常の人と違つていたのですか。三十字以内(句読点も字数に数えます)でわかりやすく説明しなさい。